

市立

いちかわ

自然博物館だより

平成31年(2019年)

2-3月号

(通巻 180号)

2018年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

カルガモ

大町公園は、人が歩く範囲が園路に限
定され、野鳥ものんびりです。人がい
ない雨の日は、ご覧のとおりです。

P1 ☀️ いきもの写真館
カルガモ

P2 ☀️ 気にしておきたい市川の自然
ふくろう
/ 3

P4 ☀️ 身近なところに花鳥風月
ヤマトシジミ

P5 ☀️ 街かど自然探訪
真間・関東ローム層の見える切通し

☀️ くすのきのあるバス通りから
スズガモのいる風景

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
かんたん飼育 マツモムシ

P7 ☀️ わたしの観察ノート
11月～12月の記録

P8 ☀️ 行事案内

気にしておきたい市川の自然

ふくろう

「ふくろう」という生物名は、生活上、身近な言葉です。ですが野鳥としてのフクロウ類は、ほとんどの人には縁がない存在です。でも実際は？ 実は身近にいる種類もあります。存在を知って気にしてくれる人が増えるといいですね。

市域北部では普通に生息するフクロウ

フクロウ類には何種類かが含まれます。そのうち、種名としてのフクロウは「ホーホー、ゴロスケ、ホー」と鳴く、いちばん知られているフクロウです。その名前が暮らしに定着していることからわかるように、もともと人里に生息する野鳥です。そしてそれは、いまの市川市域でも変わりありません。

昨夏（2018年7月）、ホテル観賞会に訪れた人たちの頭上をフクロウが音もなく飛んだのを大町公園で確認しました。同じくその春には、市内のある公園で、折れた大木の穴にフクロウの子がいたのが目撃されています。市域北部でフクロウを見ても、それは見間違いでも、動物園からの逃げ出しでもないのです。

来なくなったアオバズク

アオバズクという小型のフクロウ類がいます。渡り鳥で、初夏に日本に渡ってきて子育てをし、秋に南へ帰ります。ツバメと同じです。

アオバズクは、里見公園で長く繁殖を続けていました。市内の野鳥を長く観察している根本貴久さんからいただいた記録によると、1987年に初めて気づいてから2004年まで18年連続で繁殖し、1年空けて、2006年、2007年も繁殖しました。大きなケヤキの洞（うろ）を巣に使い、毎年7月には巣立った幼鳥が確認されていました。

2008年で途絶えてしまったわけですが、その理由をはっきりとはわかりません。巣立った幼鳥がカラスに襲われるなどしたことが原因かもしれませんし、渡り鳥なので冬を過ごす彼の地や、渡りの経由地に問題が生じたのかもしれません。

ただ、アオバズクが里見公園で繁殖してきたことの原因はある程度推測できます。大木があるからです。里見公園がある国府台地区は、歴史的にお寺や軍隊、学校、病院など公共的な利用が続いてきました。一般的な宅地開発では伐採されてしまう大木が、公共的に利用される歴史の中で残されたのです。市域きっての大木密集地域であることは、いまでも変わりありません。

江戸川のフクロウ

フクロウといえば森の野鳥という印象ですが、河川敷のような開けた場所で暮らすフクロウ類もいます。コミミズクという種類です。根本さんのかつての記録では、2004年、2005年、2008年、2010年と目撃されています。

その後は不明ですが、特に里見公園の下、かつての坂川の流路が江戸川に合流する一帯は、新しく堤防が作られた以外は昔からあまり環境が変わっていません。人間による活用がされていない「未利用地」です。そのため、いまでも野鳥が多く生息しています。コミミズクも時々飛来しているかもしれません。

里見公園のアオバズク

継続的に観察していた根本さんから写真を提供していただきました



初めて見つけたアオバズク（成鳥）
1987年7月26日



3羽の幼鳥と、その下に成鳥
1989年7月23日
幼鳥は最終的に4羽だったそうです



アオバズクの親子（左が幼鳥）
1992年7月27日



左から、親、子、子、子
2003年8月3日



アオバズクの兄弟
2006年7月23日



繁殖確認が途切れた翌年。南へ渡る直前の成鳥の姿（これが最後の観察）
2008年10月4日



ヤマトシジミ

身近なところに花鳥風月

当館学芸員の自宅の庭で出会ったさまざまな生き物を
このコーナーでは紹介しています。

冬の庭は寒々しくてカラカラで

今年は野鳥もあまり来てくれません。

黄色いゴーヤーの花にいろいろな来訪者があった夏が
思い出されます。

昆虫採集では「雑魚(ざこ)」扱いのヤマトシジミも
庭のちっぽけな生態系の中では主役です。

片隅に生えるカタバミに卵を産み、
そこから成虫まで、一生を庭で送ります。



街かど自然探訪

おじゃまします!

ま ま 真間・関東ローム層の見える切通し

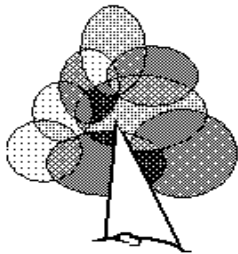
真間山弘法寺の急な石段を上らずに、幼稚園の方に上がる坂道があります。低地から台地へと一気にあがる道です。上りきる手前に、関東ローム層のてっぺんの部分と表土との境がよくわかる切通しがあります。市内では大きな地層が見られる場所がありません。また、崖だとふつう下から見上げて、上部はじっくり見られません。縦に入るひび割れ、表土との色の違い、木の根や植物の生え方、境界のようすなどを観察すると面白いです。



△ 関東ローム層の見える切通し

→は、関東ローム層と上にかぶさる表土との境を指している。

明るい色の部分が関東ローム層。実際は、オレンジがかった色をしている。縦に大きくひび割れが入っているのも特徴の一つ。

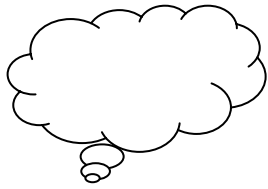


くすのきのあるバス通りから No.122

スズガモのいる風景

「葛西海浜公園の西なぎさ」に行ってきました。途中、車窓から塩浜の石積み護岸ができ、駅の海側の整地をしているのが見えました。歩いて一周しましたが、生きたカニや貝は見られませんでした。ゴミもなく、カキとアサリのかげらがあるだけです。沖にはスズガモ何万羽とカンムリカイツブリでしょうか、浮かんでいました。くちばしを羽根の下に入れ休んでいるようでした。夏に訪れた「ふなばし三番瀬海浜公園」はたくさんのカニと、貝かゴカ

イをついばむ鳥が渚におびただしくいて、アオサで覆われ臭いがありました。「谷津干潟」は四角く残され、小さいころ谷津に住む親せきの家や「谷津遊園」で遊んだころとは違います。スズガモといえば、「行徳野鳥観察舎」です。塩浜橋からかつての堤防に沿っていくと、基礎とガレキを片付けていました。目の前の川とその先の湿地にユリカモメとオナガガモがいました。海辺の自然が、これ以上なくならないことを願います。(M. M.)



展示室

No.24

飼育生物の話題



かんたん飼育 マツモムシ

昨秋の体験学習で捕れたマツモムシは、年が明けても元気です。長田谷津でもまれにしか見つからないレア昆虫ですが、展示での評判はイマイチです。飼育ケースの中のどれがマツモムシかわからなかったり、ひっくり返って浮いているので「死んでいる」と決めつけられたり・・・ マツモムシのような水生昆虫は、カブトムシやクワガタムシ以上に身近から姿を消した生き物です。ですが、有名なタガメやゲンゴロウばかりに注目が集まり、マツモムシの認知度はイマイチです。

マツモムシの観察ポイントは、いつもさかさまになって水面に浮かんでいることです。上の写真は飼育ケースの上から撮影しました。見えているのはお腹側で、長い後ろ脚が目立ちます。この後ろ脚をオールのように動かして自在に泳ぎます。飼育ケースの壁面に反射した顔が、かろうじて写っています。

飼育は、おそらく展示室で飼っている生き物のなかで、いちばん簡単です。飼育ケースに水を入れ、休憩用に小さな水草を浮かべます。休むときは、ここにつかまります。餌は冷凍アカムシ。毎日、解凍した1匹をマツモムシの前脚に持たせれば、つかんで体液を吸い取ります。呼吸はお尻の先（正確には腹端）を水の外に出す空気呼吸なので、ブクブクも必要ありません。

わたしの 観察ノート

◆長田谷津より

- ・ガマの穂がはじけて綿毛がふわふわ飛んでいました(11/3)。近くのジョロウグモの巣は、綿毛で真っ白になっていました。

金子謙一(自然博物館)

- ・11月だというのにアブラゼミが鳴いていました(11/10)。さすがに今年最後の記録になりそうです。
- ・斜面林の際の日当たりの良いところでホソミオツネトンボを見つけました(11/16)。まだ暖かく止まる枝も決まっていなかったのか、枝から枝へと飛び回っていました。
- ・ムクノキの実を食べるシロハラを見ていると、見慣れないツグミの仲間がやってきました。確認するとマミチャジナイでした(11/23)。長田谷津ではかなり珍しい記録です。
- ・ウサギがいたという情報を聞き駆けつけると、斜面林に成獣のノウサギがいました(12/14)。なかなかみることのできないノウサギを観察できて、とても幸福でした。写真を撮って確認すると、昨年2月に確認した個体と体の同じところに傷があり、同一の個体である可能性が高そうです。

以上 稲村優一(自然博物館)

- ・前日に吹いた強い風で、園路にイヌシデの実がたくさん落ちていました(12/15)。アオジがそれを食べていました。人が通ると園路から降りますが、すぐに戻ってきていました。

宮橋美弥子(自然博物館)

◆じゅんさい池緑地より

- ・木の幹に、アカスジキンカメムシの成虫と亜成虫がいました(11/24)。この日は、ほかにもマルカメムシやオオホシカメムシが見られました。この時期は、成虫越冬である関係でカメムシの姿を目にすることが多くなります。

◆国府台緑地より

- ・道に沿ってコウヤボウキが群生している一角があります。この日、遅咲きの花をひとつだけ見ることができました(12/5)。
- ・センリョウ、マンリョウ、ヤブコウジがそろって赤い実をつけていました(12/9)。自生種はヤブコウジだけで、他は鳥が運んできた園芸種由来のものですが、理屈はどうあれ、華やいだ感じになりました。

◆坂川旧河口より

- ・地元のテレビの取材で、野鳥を見ました(12/26)。自然が多いところではカラスも野鳥ですね、というような話をしていたら、飛び立ったハシブトガラスは、ハンガーをくわえていました。撮影は、残念ながら間に合いませんでした。

以上 金子謙一

11月になると朝晩は冷え込み、下旬には紅葉が見ごろになりましたが、日中は暖かでした。12月に最高気温が20度を越え、南風が木の葉を散らしました。年末は最少湿度が20%まで下がりカラカラでした。



行事案内



長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日 時 3月2日㊥、4月6日㊥、午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日 時	集 合 場 所
地形探訪	3月10日㊥午前10時～11時30分	市川公民館入口 午前10時

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いして下さいませんか。
(雨天中止)

- ・日 時 2月24日㊥、3月24日㊥、
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・はじめて参加される方は
…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けをお手伝いして下さいませんか。
(申し込み不要・雨天中止)

- ・日 時 3月3日㊥、4月7日㊥
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、
博物館までお電話でお問い合わせください。

第30巻 第6号 (通巻第180号)
平成31年2月1日 発行
編集・発行/市立市川自然博物館
(市川市教育委員会生涯学習部)
〒272-0801千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477